

会議名	平成29年度第4回港区指定管理者選定委員会
開催日時	平成29年10月16日（月曜日） 午後2時から午後3時15分まで
開催場所	区役所4階庁議室
委員	（出席者） 田中副区長（委員長）、安田企画経営部長（副委員長）、北本総務部長（副委員長）、野上企画課長（区役所改革担当課長）、荒川財政課長、星川総務課長、茂木契約管財課長
出席所管課長	西川地域交通課長、佐々木図書・文化財課長
事務局	内藤企画担当係長、山田企画担当
会議次第	1 開会 2 議題 （1）指定管理者の選定について ①白金台駅自転車駐車場 ②郷土歴史館 3 閉会
配付資料	[席上配付] 白金台駅自転車駐車場 資料1 指定管理者候補者選定調書（非公募用） 資料1-2 指定管理者指定申請に対する審査表 資料1-3 職員配置表 資料1-4 指定管理者指定申請書 郷土歴史館 資料2 指定管理者候補者選定調書（公募用） 資料2-2 指定管理者候補者選考委員会報告書 資料2-3 指定管理者応募者提案内容の比較表 資料2-4 職員配置表 資料2-5 選考委員会採点表 資料2-6 選考委員会議事録 資料2-7 指定管理者指定申請書
会議の結果及び主要な発言	
野上委員	（1）指定管理者の選定について ② 郷土歴史館 （所管課長から資料に基づいて説明） カフェの運営をH社に再委託するとある。指定管理料にH社への再委託料を含む一方で、カフェの売り上げは全て区の収入することで、結果的には指定管理料が相殺されるような仕組みなのか。
図書・文化財課長	協力企業としてH社が入る想定であり、再委託先として記載をされているのは、協力企業を書く欄が様式にはなかったためである。カフェの運営を丸々再委託することではない。
野上委員	カフェの運営は、指定管理料から全く支出がなく、原材料費から光熱費まで売り上げで全部、独立採算の形をとるようなイメージか。

図書・文化財課長	そのとおりである。
野上委員	H社が運営してくれるのは魅力的だが、利益や損失が生じた場合の取扱はどうなっているのか。
図書・文化財課長	今の段階ではどの程度の売り上げとなるか分からない部分も多い。1年目運営してみて、どの程度の売り上げが上がるのか実績を見て判断したい。当初の段階で、売り上げが相当分上がった場合については、何らかの取り決めをしていかなければいけないと考えている。
北本副委員長	選考のポイントの(1)で、代表団体が同規模の博物館の運営実績がありと、共同事業体でもやっているとのことだが、具体的にどこの施設運営を何年ぐらいやっているのか。
図書・文化財課長	川崎市市民ミュージアムを平成29年度から運営している。その他25施設ほど自治体の施設の運営をしており、博物館や歴史館に近い種別ものを運営している。B社は、3施設あるが、指定管理の業務としては1施設のみということで、その規模は数百平米というような規模のものだった。
北本副委員長	川崎市市民ミュージアムは、この郷土資料館的な施設のような施設か。
図書・文化財課長	歴史に特化しているわけではないが、同様の博物館である。
北本副委員長	ほかの施設ではかなり長くやっている施設もあるのか。
図書・文化財課長	この事業者自体は、指定管理者制度が開始された当初から参画しており、現在多くの施設で指定管理者としての実績がある。
星川委員	選考したA社の人件費が、B社と比べるとかなり多いが、それは職員数が多いのか、それとも職員の質的なことで高くなっているのか。
図書・文化財課長	両方ある。A社の職員配置は全体で46名という提案になっており、もう一方のB社は33名で、13名ほど違う。前者の中には学芸員の資格を持っている職員を3名、また、図書館の図書司書の資格を持っている職員の配置を提案されていることもあって人件費が高いが、積極的に体制を充実させているところが評価された。
茂木委員	選考委員のコメントの中で、A社について「多くの提案事業が挙げられており、集客業務に目が向きすぎている」というコメントがあるが、問題なく任せられるのか。また、人員体制でシルバー人材センターの活用がないが、これは業務的にお願いするのは難しいのか、もしくは、今後少しずつでもお願いするものがあるのか。
図書・文化財課長	1点目の「集客業務に目が向きすぎている」という表現について、かなり多くの事業を実施するという事で懸念があったが、これまでの他施設の実績等を細かく聞いた中で、人の配置もそれが事業の実現が可能な内容にはなっているという評価になった。2点目は、シルバー人材センターについては、今後、連携できる部分があればと考えている。

野上委員	提案内容の比較表を確認すると経費が5年半で5億円程度差がある。内訳をみると、事業運営費が約3億円、人件費が約2億円の差になっている。人件費の差は、先ほどの配置人数や有資格者の配置などの差であるが、この施設の仕様書から、この施設の経費の考え方が、A社とB社のどちらが適当なのか分からない。どう考えたのか。
図書・文化財課長	経費については、年8,000万円程度差があるということは認識している。例えば、年間の修繕費では、A社が約570万円、B社は約60万円で提案しているが、これは施設運営をする上で着目する金額が異なっていて、他施設での経験の差が出ていると判断した。事業運営もここまで必ずやらなければいけないというものではないが、開業当初の取組が重要だということで集客をするための事業、施設の魅力を高めるための事業を数多くやっていくという意味からすれば、指定管理料にはね返ってくる部分ではあるので、今後調整していく。
委員長	事業費としての評価はしていないのか。同じことをやれるのであれば安いほうがよい。選考委員会ではどう評価されたのか。
図書・文化財課長	最終的には、差額を加味された上で評価されたと認識をしている。
委員長	安かろう悪かろうでは良くないというのは理解できるが、経費が低い提案であれば区が公募要項で示した内容が提示額で実現可能なのか、選考委員会で確認する必要がある。経費が圧倒的に違う内容で、適切性を欠く金額だということであれば、これは安過ぎるということの評価はしなくてはならないが、そういうことが審議されているのか。適正な金額の範囲内なのか。
図書・文化財課長	金額としては、他施設での事業内容や経費を鑑みると、本施設で提案された額も妥当であると考えている。実施する事業の数や事業の内容によっても経費も変わってくるので、指定開始に向けて事業者と調整していく。
委員長	カフェのところで、H社が運営とあったが、どこに記載があるか。
図書・文化財課長	H社は再委託に関する書類に協力企業として名前出している。
委員長	再委託が可能な業務は、専門的な業務に限られるので、適切な対応をお願いしたい。
図書・文化財課長	承知した。
委員長	カフェの設置はカフェフルールのように障害者雇用の拠点となるようお願いしたいと言ってきたが、どうなったのか。
図書・文化財課長	みなと障がい者福祉事業団に行き、オリジナルメニューやショップのオリジナルグッズの開発などが対応可能か確認したところ、対応は難しいと回答を受けた。別の事業者にも運営してもらい、ショップの店員として入ることは協力できるということで、事業団から提案を受けた。障害者の方の雇用促進について指定管理者とも協議を進める。
委員長	費用に関して、5億円の違いというところについて、丁寧に分かるように説明ができ

るようにお願いをしたい。光熱水費は、一定の範囲におさまると思うがA社、B社で光熱水費に差があるのは、考え方が違うのか。

図書・文化財課長 光熱水費については区の試算額を示しており、両者ともに他施設での管理運営実績を踏まえて金額を提案している。

委員長 区が示した試算額ものはどのぐらいか。

図書・文化財課長 電気、水道、ガス合わせて年間9,650万円である。

長

委員長 B社そのまま採用し、A社はそれよりも低い金額を提示したということで承知した。

委員長 他になれば本件については了承でよろしいか。

(全員) 異議なし。